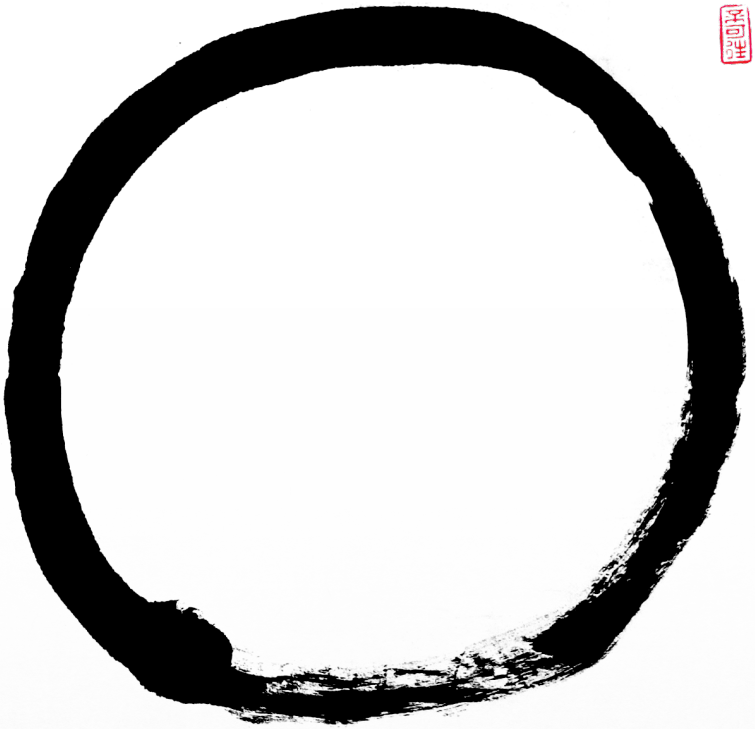
令和6年度　漱石山房記念館　《通常展》テーマ展示

『門』―夏目漱石の参禅―



彼は門を通る人ではなかった。
また門を通らないで済む人でもなかった。

『門』二十一

会　　期：2024年 4月25日(木)～7月7日(日)

会　　場：新宿区立漱石山房記念館 2階資料展示室

開館時間：10:00～18:00（入館は17:30まで）

休 館 日：毎週月曜日（祝休日にあたるときはその翌日）

観 覧 料：一般300円、小中学生100円
※団体（20名以上・要事前連絡）は個人の観覧料の半額
※小中学生は土日祝日は無料
※障害者手帳等をお持ちの方は手帳の提示で無料（介助者1名無料）

主　　催：新宿区立漱石山房記念館（指定管理者：公益財団法人新宿未来創造財団）
〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7　TEL.03-3205-0209　FAX.03-3205-0211　https://soseki-museum.jp/

協　　力：大本山円覚寺、帰源院、東慶寺、鎌倉漱石の會

※墨蹟は釈宗演筆円相（東慶寺蔵）より

ぐるっとパス 2024 Grutto Pass 2024

令和6年度　漱石山房記念館　《通常展》テーマ展示

『門』―夏目漱石の参禅―

帰源院山門

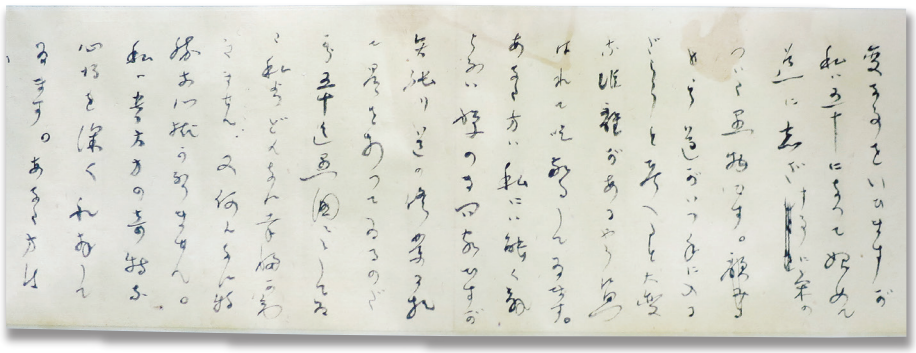
自分は元來生れたのでもなかつた。
又死ぬものでもなかつた。

虚子著『鶏頭』序

漱石は、明治27（1894）年の年末から翌年初めにかけて鎌倉円覚寺に参禅しました。漱石作品の多くに禅味を帯びた表現が見受けられますが、この時の生活や、悟りを開けずに帰京した経験は、明治43（1910）年に東京と大阪の朝日新聞に発表された小説「門」にもっともよく反映されています。大正3（1914）年の春ごろから、二人の若い雲水（修行僧）と親しく交流するようになり、禅に対する関心をいっそう深めていた矢先に漱石は亡くなってしまいました。この雲水のうちの一人は、奇しくもかつて参禅時に漱石が止宿した円覚寺塔頭帰源院の住職となり、漱石と交わした手紙が今に伝わっています。漱石の参禅130年を記念する本展示は、漱石が禅の指導を受けた釈宗演関係資料や漱石作品中の禅に関する記述、雲水に宛てた手紙などをもとに、漱石と禅の関わりについてご紹介します。

夏目漱石『門』初版　春陽堂、明治44（1911）年　装幀:橋口五葉

夏目金之助　富沢敬道宛書簡（部分）　大正5（1916）年11月15日付　帰源院所蔵



変な事をいひますが私は五十になつて始めて道に志ざす事に気のついた愚物です。顧みると其道がいつ手に入るだらうと考へると大変な距離があるやうに思はれて吃驚してゐます。あなた方ハ私に能く解らない禅の専門家ですが矢張り道の修業に於て骨をおつてゐるのだから五十迄愚図々々してゐた私よりどんなに幸福か知れません、又何んなに特勝な心掛か分りません。私ハ貴方方の奇特な心持を深く礼拝してゐます。あなた方は

新宿区立漱石山房記念館

（指定管理者：公益財団法人新宿未来創造財団）

〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7

TEL.03-3205-0209　FAX.03-3205-0211

https://soseki-museum.jp/

交通のご案内

〈電車〉

東京メトロ東西線「早稲田駅」1番出口より徒歩10分

都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅」東口より徒歩15分

〈バス〉

都営バス（白61）「牛込保健センター前」より徒歩2分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

関連イベント　ギャラリートーク　《日時》5月12日(日)、6月16日(日)　午後2時～2時20分　《場所》漱石山房記念館地下1階講座室